

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

| 分野 | 景気の先行き判断 | 業種・職種 | 景気の先行きに対する判断理由 |
|-------------------------|-------------|---|--|
| 家計動向 関連 (北海道) | | 一般小売店〔土産〕 (経営者) | ・9月の売上は前年比で117%、前々年比で112%と好調であった。これまでは外国人観光客に助けられていた面があったが、ここ数年で初めて国内観光客による売上が増えるなど、今まで決して感じられなかった国内景気の回復を感じられる月であったことから、今後についてはやや良くなる。 |
| | | 一般小売店〔酒〕(経営者) 百貨店(担当者) | ・9月は今年に入ってから最低の売上の月であったため、今月よりは良くなることが見込める。 ・年末に向けて消費が上向いてくることに加えて、周辺ににぎわいが出てくることも期待できるため、景気は持ち直すことになる。 |
| | | スーパー(店長) | ・前年の11~12月は例年よりも早い降雪の影響などで厳しい状況にあったが、今年はその反動による増加が期待できる。 |
| | | 家電量販店(経営者) | ・厳しい状況ではあるが、季節要因による景気の上振れが期待できる。 |
| | | 乗用車販売店(経営者) | ・新型車を中心に、先行指数である新車受注が高水準であった前年の水準を超えており、一時期の停滞ムードが解消しつつある。 |
| | | 乗用車販売店(従業員) | ・新型車の投入に伴い、前年を上回る販売量が見込めることから、今後についてはやや良くなる。 |
| | | 自動車備品販売店(店長) | ・冬タイヤの値上げ後も売上が前年を上回っている。客の購入点数も増加していることから、景気が上向き傾向にある。 |
| | | 通信会社(社員) | ・総選挙の影響で一時的に売上が減る懸念もあるものの、最終的には上向きになることが見込める。 |
| | | 通信会社(企画担当) | ・首都圏と比べて新製品に対する予約件数、引き合い件数の増加幅が大きく、冬季に向けて販売量の改善が期待できる。 |
| | | 住宅販売会社(経営者) | ・10月の総選挙で与党が大勝すれば、ムードが良くなり、経済面にもプラスとなる。 |
| | | 商店街(代表者) | ・秋から冬への衣替えの時期ではあるが、客単価がなかなか上がらず、苦戦している店舗が多いことから、今後も変わらない。 |
| | | 商店街(代表者) | ・総選挙の話が急に浮上したが、客の雰囲気から今後も大した変化がないまま推移する。 |
| | | 商店街(代表者) | ・今のところ、年末は例年と同様のイベントなどが行われる予定であるため、売上が伸びるような要因は見当たらない。季節要因を除けばやや悪い状態のまま変わらずに推移する。 |
| | | 百貨店(販売促進担当) | ・今後も、日常の買物をするような地元客が減少する一方で、外国人客が増加する傾向がしばらく続くこととみられるため、景況感は変わらない。 |
| | | 百貨店(役員) | ・ここ半年、月による変動が激しいため、先行きの動向が判断しづらい状況になってきている。 |
| | | 百貨店(営業販促担当) | ・前年の台風被害による落ち込みの反動で、衣料品については若干の回復傾向が出てきているが、イベントへの集客が弱くなっている。また、客単価も上がってこないため、しばらくは樂觀できない状況が続く。 |
| | | スーパー(店長) | ・目的買いの需要が高くなるとみられるが、依然として客の節約志向は変わらないため、今後も景気は変わらない。ただし、総選挙後の動向によっては変化が生じることになる。 |
| | | スーパー(店長) | ・変動要因が見当たらないため、今後も変わらない。 |
| | | スーパー(店長) | ・ここ数か月、競合店の中でも、ディスカウント業態のスーパーが力を付けており、客がより単価の低い商材、安い商材を求めている状況がうかがえる。 |
| | | スーパー(役員) | ・消費動向は悪くないとの報道もあるが、スーパーのような食品を中心とした業態では、高齢化の影響もあり、消費動向が良くなることは期待できない。ドラッグストアでの食品取扱構成比の上昇、ディスカウント業態との価格競争などで、経営環境はますます厳しさを増してくることになるため、今後も景気は変わらない。 |
| | コンビニ(エリア担当) | ・週末や夜間の来客数減少が続いている。食料品に対する客の消費マインドは依然として弱く、その一方でサービス売上が増加していることから、スマートフォンや観光などのコト消費にお金の使いどころが変化している状況がうかがえ、今後も景気は変わらない。 | |
| | コンビニ(エリア担当) | ・今後については、大きな公共工事の予定などが無いため、変わらないまま推移する。 | |
| | コンビニ(店長) | ・景気が良くなる要素が見当たらない。客の節約志向もまだ続きそういため、景気は変わらない。 | |

| | |
|------------------------------|--|
| 衣料品専門店（店長） | ・来客数が前年を下回っていること、売上が前年と変わらないことから、今後も景気は変わらない。 |
| 衣料品専門店（店長） | ・社会情勢の不安定さが増しており、総選挙が終わるまで予断を許さない状況となっている。 |
| 家電量販店（店員） | ・今後については、朝晩の冷え込みが厳しくなることで、暖房機などの売行きが良くなることが期待できる。 |
| その他専門店〔医薬品〕（経営者） | ・客への相談対応を基本路線にするなど、ノウハウを強化した新形態を目指さないと生き残れない状況になってきている。ほとんどの店舗では対応できないため、景気が上向くことを期待している。 |
| 高級レストラン（経営者） | ・これから総選挙期間に入るが、期間中は商売が上ったりである。今後の景気が上向くかどうかは総選挙の結果次第の面があるが、先行きへの不透明感は強い。 |
| 高級レストラン（スタッフ） | ・今後も景気は変わらない。近々、輸入オリーブ油が値上げになるため、食材費を削る必要が出てきている。また、総選挙期間中は客の入込が減少する傾向にある。そのほか、消費税増税が話題に上がってきていることで、今後の家計消費の減退も懸念される。道東のサンマ加工業者からは、不漁で原料を仕入れることができず、今年はサンマ缶を作れないとの話があり、地元経済への打撃が計り知れないようである。 |
| 観光型ホテル（スタッフ） | ・今後については、コンサート、イベント、学会、報奨旅行などのプラス要因があるが、外国人観光客の募集型企画旅行の催行率がどのようになるのかが不確定要素となっている。 |
| 旅行代理店（従業員） | ・先行受注状況のみを限り、良くも悪くも大きな変動が生じるような傾向はうかがえない。 |
| 旅行代理店（従業員） | ・第3四半期の販売量が前年とほぼ同じであり、今後の販売量の増加を見込むことが困難な状況となっている。 |
| 旅行代理店（従業員） | ・来客数の伸びない状況が続いている。前年との比較でもほぼ横ばいで、良くないままであることから、今後についても変わらない。むしろ、悪い方向に向かうことを懸念している。 |
| タクシー運転手 | ・現在の乗務員不足が解消する目途が全くないため、今後もここ数月と同じようにタクシーの稼働率の悪い状況が続く。売上も前年を上回ることはない。 |
| タクシー運転手 | ・国内観光客や外国人観光客、イベント関係者の予約状況に変化がみられないため、今後も景気は変わらない。 |
| タクシー運転手 | ・今のところ、1次産業の状況があまり良くなく、この先の景気が上向く材料に乏しいことから、引き続き景気は緩やかに下向きで推移する。 |
| タクシー運転手 | ・今後の景気回復への期待を持たないため、今と同様の状況のまま推移する。 |
| 観光名所（従業員） | ・北海道新幹線の開業効果のあった前年は特殊な年であるため、利用乗降客数を前々年と比較すると、ほぼ同数で推移していることから、今後も変わらないまま推移する。 |
| 観光名所（職員） | ・アジア圏からの外国人観光客の増加に後押しされ、来場者数は好調を維持している。経済情勢の変化などが無い限り、こうした流れは当面続く。 |
| 美容室（経営者） | ・今年は季節変動があまり感じられないことから、今後も同じように堅調に推移することになる。 |
| その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員） | ・今後については、冬型の気候に近づくことで、しけによる欠航などの影響が出てくる懸念がある。 |
| 住宅販売会社（経営者） | ・消費税増税の動向も含めて、総選挙の結果によって今後の経済政策が決まってくるとみられるため、分譲マンション市場の動向も総選挙の結果に影響されることになる。 |
| 商店街（代表者） | ・毎回のことだが、総選挙は消費に対して大きなマイナス要素であるため、10月の動向が心配である。また、中国人観光客の渡航制限の動きがみられていることで、今後の外国人観光客が減少することも懸念される。 |
| 商店街（代表者） | ・これから寒くなると、来客数が減ることになるため、今後の景気はやや悪くなる。燃料代がかかるようになることもマイナス要因である。 |
| 百貨店（売場主任） | ・これ以上、景気が良くなるような要素が見当たらないため、現状維持のまま推移するとみられるが、外国人観光客の伸びが前年11月から始まったため、11月以降は伸びが鈍化することが見込まれる。また、中国人観光客の渡航制限が始まりそうなこともマイナス要素である。 |
| スーパー（企画担当） | ・過去の傾向から、総選挙はどちらかというと消費にはマイナスの要因となる。また、小売各社の値下げ競争が激しさを増している。これらのことから、予断を許さない状況にある。 |

| | | |
|-----------------------------|-------------------------|---|
| | スーパー（役員） | ・魚が獲れないため、水産関係の不振がひどい。従業員の解雇もあり、地域全体の経済に影響が出ている。 |
| | コンビニ（エリア担当） | ・漁業関係の資源が減少しているため、今後の景気が上向くことは厳しいといえる。 |
| | コンビニ（エリア担当） | ・道東の漁業不振の影響が近隣店舗の数字にも表れ始めている。今後も持ち直す見通しはないため、景気が低迷することになる。 |
| | 乗用車販売店（経営者） | ・今後、基幹産業である漁業の不振が、各方面に影響を与えることになれば、関連企業を中心に消費者マインドが低下することになり、販売量の減少につながる懸念される。 |
| | 乗用車販売店（従業員） | ・例年と同様に、年末に向けて販売量が減少するとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。 |
| | 乗用車販売店（従業員） | ・10～11月のタイヤ交換の時期になると、来客数が増える分、商談のチャンスも増えるが、北海道では年末を控えて買い控えが強まる傾向があるため、販売量は9月よりも減ることになる。 |
| | その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者） | ・原油価格が上昇傾向にあるため、客の節約志向が強まる懸念される。 |
| | 高級レストラン（スタッフ） | ・消費税増税が現実味を帯びてきていることから、今後の景気への不安が表れつつある。 |
| | 一般レストラン（スタッフ） | ・総選挙を控えて、利用客の減少が見込まれる。 |
| | 旅行代理店（従業員） | ・観光の閑散期となり、2月の流氷シーズンまでは集客の伸びない状況が続く。また、北朝鮮情勢や総選挙など、マイナス要因も見込まれるため、今後については厳しい状況にある。 |
| | 旅行代理店（従業員） | ・冬場に向けて旅行需要が減少傾向になることが見込まれる。 |
| | タクシー運転手 | ・これからオンシーズンに入るが、人員不足の状態にあることから、業績悪化が懸念される。 |
| | 美容室（経営者） | ・総選挙が行われても、結局は税負担が増えるとみられるため、今後についてはやや悪くなる。 |
| | × 商店街（代表者） | ・シーズンオフのため、今後の景気はやや悪くなる。 |
| | × 観光型ホテル（役員） | ・北朝鮮情勢の悪化が外国人観光客の集客に影響を及ぼす懸念がある。また、総選挙が行われることで、国内旅行客の動きも鈍くなるが見込まれる。 |
| | × タクシー運転手 | ・夜の繁華街への人出が増えることは期待できないため、今後については悪くなる。また、外国人観光客はリゾート地に長期滞在する傾向があり、観光周遊しないことから、観光需要も見込めない。 |
| 企業 動向 関連 (北海道) | - | - |
| | 食料品製造業（従業員） | ・スポット需要ではあるが、冬季に向けて新規の案件が決まってきているため、今後の売上はやや良くなる。 |
| | 輸送業（営業担当） | ・今のところ、今年は大きな台風などによる農作物への被害もあまりないため、砂糖、でん粉、生乳の輸送量の増加が期待できる。 |
| | その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者） | ・例年に比べるとやや遅れているが、少しずつ新規の受注案件が出始めている。 |
| | その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員） | ・仕事の納期や工期の遅れが多少みられるため、今後については忙しくなり、製品の販売量などが回復することになる。 |
| | 食料品製造業（従業員） | ・景気が悪くなることはあるかもしれないが、景気が良くなるような材料は特にはない。 |
| | 家具製造業（経営者） | ・東京オリンピックに向けて様々なプロジェクトが動き始めており、首都圏を中心に景気が上向くことが見込まれるものの、地方への波及までは見込めない。 |
| | 建設業（経営者） | ・土木、建築共に稼働がピークを迎えて、人手不足となっていることから、新規案件の受注は一段落している。年明けからは来年度の受注に向かうことになる。また、総選挙の影響で補正予算がどうなるのかが心配である。 |
| | 建設業（役員） | ・今年度内の工事量はほぼ確定している。現場配置可能な人員数の制約もあり、これ以上の年度内工事の受注は難しい状況となっている。今後は次年度繰越案件での工事量確保と、人手不足を踏まえた採算性重視の選別受注に注力することになる。 |
| | 通信業（営業担当） | ・今後に控えている案件の規模、件数から、現状と同様の景気はやや良い状態が継続する。 |

| | | |
|-----------------------|--------------------------|--|
| | 金融業（従業員） | ・今後、好調な観光関連と公共投資がピークアウトし減速することが見込まれるものの、最低賃金の引上げなどにより、雇用所得環境の改善が続くことで、個人消費は底堅く推移することになる。そのため、道内景気は現状と変わらないまま推移する。 |
| | 司法書士 | ・総選挙の結果次第ではあるが、経済政策などが早急に策定、実施されることは少ないとみられるため、今後も景気に変化が起こることはない。 |
| | コピーサービス業（従業員） | ・業界によって景気の良しあしははっきりとしているものの、全体的には今後もあまり変わらないまま推移する。 |
| | その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当） | ・建設需要が現状よりも増加するような環境ではないため、今後も景気は変わらない。 |
| | その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当） | ・すでに当社の繁忙期を迎えているため、今後の大きな伸びは期待できない。 |
| | 出版・印刷・同関連産業（従業員） | ・総選挙になると、客の動きが鈍くなるため、今後についてはやや悪くなる。 |
| | 建設業（従業員） | ・突然の総選挙の影響で、今後の公共建設工事の発注が遅滞することが懸念される。 |
| | 輸送業（支店長） | ・今後については、冬を迎える時期であり、引き合いの動きもあまりみられないことから、現状よりも厳しくなる。 |
| | x | - |
| 雇用 関連 (北海道) | 人材派遣会社（社員） | ・有効求人倍率の推移をみても分かる通り、求人ニーズは今後も堅調に推移する。企業の景況感もやや改善している。採用に至らない求人企業からは問い合わせが途絶えず、企業の業績が低迷するような傾向もみられない。 |
| | 求人情報誌製作会社（編集者） | ・秋商戦で個人消費関連のアルバイト求人が増加することになる。前年よりも求人にも勢いがある。 |
| | 求人情報誌製作会社（編集者） | ・今後も公共事業を中心に、土木建築関係の仕事が見込まれることから、関連業界を中心に雇用環境がやや良くなる。 |
| | 新聞社〔求人広告〕（担当者） | ・基幹産業である農業が好調に推移していることに加えて、前年の台風被害の復興工事が順調に発注されているため、今後についてはやや良くなる。 |
| | 求人情報誌製作会社（編集者） | ・景気のベクトルはやや上向きと見込まれるが、全業種的に人材不足が足を引っ張っている面があるため、今後も景気は変わらない。 |
| | 求人情報誌製作会社（編集者） | ・アルバイト・パート求人の減少を正社員求人の増加で補っている状況が続いていたことから、正社員求人の動きが落ち着くと全体の数字が前年を下回る懸念があったが、ここにきてアルバイト・パート、正社員共に求人件数が前年の数字に近づいてきていることから、今後も変わらないまま推移する。 |
| | 職業安定所（職員） | ・月間有効求職者数が前年を下回り、月間有効求人数が前年を上回る傾向が今後も続く。 |
| | 職業安定所（職員） | ・企業進出や設備拡充などに伴う大きな増員の動きはないが、製造分野の好調な受注状況を反映して、即戦力の確保や人材育成を念頭に置いた増員を計画する企業などがみられ、募集活動において具体的な動きが表れている。 |
| | 職業安定所（職員） | ・有効求人倍率が12か月連続で前年を下回っており、先行きに不透明感がある。 |
| | 学校〔大学〕（就職担当） | ・今後については、若干上向きのまま推移するものの、特段大きな変化まではないとみられる。 |
| | 職業安定所（職員） | ・漁業不振が続いていることで、水産食料品製造業を主とする製造業に悪い影響が生じている。 |
| | x | * |